

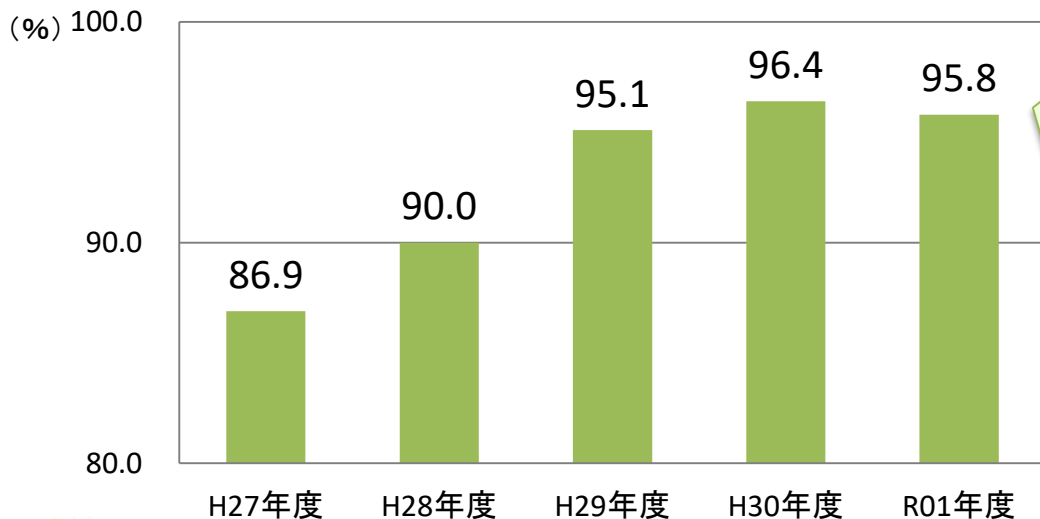
検査部・感染制御部（ICT）：血液培養検査複数セット採取率

■ 解説：process指標

血液培養検査は、感染症診療において必要不可欠な検査の1つと言えます。そのため、血液培養検査が適切に行われなければ、かえって臨床判断を困難にすることがあります。

血液培養検査から検出した細菌が汚染菌か、起炎菌かの臨床判断に難渋することもあり、誤った判断は不適切な治療につながります。血液培養検査複数セット採取を行うことで、起炎菌の検出率が向上するとされています。適切な感染症診療を目指す上で、血液培養検査複数セット採取率（同日2セット以上採取されたもの）の向上が1つの課題であると考えます。

■ 当院の実績



■ 定義

同日に2セット以上提出された血液培養の採取率
目標値：88%以上

■ 算式

分子：合計採取セット数－合計血液培養1セット数
分母：合計採取セット数

《自己点検評価》

感染制御部（ICT）による介入開始以前の血液培養検査複数セット採取率は、平成22年度は26.9%で、平成24年度から年々上昇し、平成28年度以降は90%を超え、目標を達成しています（目標：88.0%）。広域抗菌薬開始時には、血液培養2セットを採取するよう注意喚起を継続します。

診療科による血液培養検査複数セット採取率は差が見られ、各診療科での適切な感染症診療を目指す上で感染制御部（ICT）の活動が非常に大きな役割を持つと考えています。